

「読むほどに学問したくなる」



『東大教授』

沖大幹 著

新潮新書 208頁

2014年3月15日発売

ISBN 978-4-10-610560-9

税込756円(税込)

- 外部からはうかがい知れない実態を教えてください — 毎日新聞(3月25日)
- 読むほどに、新鮮な刺激を受けるのは間違いない — 夕刊フジ(4月23日)
- 実体験に基づいた助言も興味深い — 日本経済新聞(4月27日)
- 学者という仕事は魅力的であることがよくわかる — 週刊現代(5月10日)
- 心に響く言葉が次々に湧き出します — 池谷裕二、読賣新聞(5月11日)

1. 東京大学教授解体新書

2. どうすればなれるのか

3. 社会的役割と権威

4. 醍醐味と作法

5. 知的生産現場のマネジメント



東大生ほどには知られていない東大教授。その特徴、どうすればなれるのか? そもそも、なろうと思ってなれるのか? 普段どのような生活をし、何を考え、どんな風に勤務しているのか? 東大教授は全員御用学者なのか? もし東大教授になったなら、どのようにして教育研究活動を推進し、組織を運営していけばよいのか? 勉強と研究はどう違うのか? 教育研究者としての醍醐味・究極の目標は? ... 読むほどにきっと、学問したくなる。